

子どもの性的問題行動への対応をめぐる意識について
—児童養護施設職員へのインタビューを通して—

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
神戸 希

本研究の目的は、児童養護施設（以下、施設）に勤務する職員が子どもの性的問題行動と思われる事象に対し、どのような価値観・意識をもって対応しているか、職員の個人要因や価値観が子どもの対応にどのような影響を及ぼしているかを明らかにすることである。施設職員8名に対して、架空事例による質問項目をもとに半構造化インタビューを行った。KJ法に準じた質的分析の結果より、性的問題行動への対応には、【社会的基準】、【文化的基準】、【発達の基準】、【問題の発展性】という価値観や意識があり、【状況把握】したうえで、【対応方法・工夫】がなされ、それらをめぐって【施設としての課題】があることが明らかになった。【施設としての課題】として、職員は、入所児童が抱える愛着形成の問題を意識するとともに“他人”であることによる関わりの難しさ、多様な価値観による「ルールを統一する難しさ」を抱えていた。そのような葛藤や課題を抱えながらも、“ルール”の必要性、子どもの将来的な“リスク”，時代の流れを考え、自らの価値観を振り返り、様々な工夫をしていた。施設における性的問題行動への対応には、多様な価値観があることを認識したうえで、職員の価値観の違いによる対応差から、性問題が潜在化しないために、自身や他職員の性の価値観を多方面から理解しながら、チームアプローチを行うことが重要であることが示唆された。